

常に初陣

平成 25 年 11 月 15 日 発行 特別号

Shimba kazuya to Ayumukai NEWS

# しんば賀津也と歩む会 NEWS



野 党 の 声 は  
国 民 の 声 !



参議院議員

しんば賀津也

[www.k-shimba.com](http://www.k-shimba.com)

「野党の声は国民の声だ！」

平成の水戸黄門と言われ、昨年暮れの衆院選挙で政界をご引退された渡部恒三元衆議院副議長が、野に下った我々に残された言葉である。そして、先生はいつもの会津弁でこう続けられた。

「与党は相手がどんなに少数野党であってもその声に謙虚に耳を傾けなくてはならない。野党は与党がどんなに巨大であっても、国民の想いを堂々と国政に届けなくてはならない」

政府与党の支持率が高ければ高いほど、「多数の国民」の支持という光の影に存在する「少数国民」の切実な訴えは埋没しやすい。そこに光を当てることこそが、野党の重大な責務であることを大先輩がご指導くださった。

第2次安倍内閣のピーク時の支持率は70.4%（産経新聞・FNN）だった。現在は58.6%（同）に下落しているものの、依然高い支持率といえる。しかし、与党が大勝した先の参議院選挙において「自民党」が獲得した票（比例票）は投票総数の34.7%しかない。しかも選挙の投票率は52.6%。棄権票を加えた全有権者における自民党の得票率は17.7%となる。これに対し、実際に自民党が参議院で占める議席割合は47.5%（定数242議席中115議席）。負け惜しみで言っているのでも、数字のトリックなどと言っているのでもない。

「野党の声は国民の声」「与党よ謙虚たれ」

国権の最高機関であり、唯一の立法機関である「国会」に身を置くすべての与野党議員は、渡部恒三先生のこの言葉を忘れてはならないと、改めて痛感している。

私は今国会から参議院民主党の「国会対策委員長」という職務を担うことになった。常に国会の政局の渦中に置かれ、与野党交渉の最前線で陣頭指揮をふるう国対委員長の手腕が、良くも悪くも国会運営のすべてを左右するといっても過言ではない。「牛歩戦術」や「審議拒否」「フィリバスター（超長時間演説）」「徹夜国会」「座り込み」…など、かつての国会で展開された数々の野党戦術（奇術？）はすべて国対委員長の指示の下であったのはいうまでもない。

野党第一党の国対委員長として、国会運営の手の内を明かすわけにはいかないし、その選択肢を自ら狭める必要はないと思う。しかし、私は国民から見てこれらの分かり難い国会戦術はとるべきではないと思っている。「反対のための反対」や「揚げ足取りの論争」も許されない。

「良いものは良い。ならぬものはならぬ」この当たり前の原則と国民感覚を持ち続けて、今後の国会運営に全力を尽くしたい。

そんな中、巨大与党になったことへの慢心なのだろうか、自民党の政治姿勢で国民に対する不真面目さが目立ち始めた。

たとえば TPP。選挙前は「TPP 交渉参加断固阻止」と鉢巻きまでして大反対していたのが、与党になった途端に「聖域なき関税撤廃は阻止」「重要5分野を守られなければ交渉脱退も辞さない」に後退。今では「重要5項目を細分類して、主要品目を守れば公約違反でない」となってしまった。JAをはじめとする農業関係者が「公約違反だ!」「二枚舌だ!」と憤慨するのは当然のことだ。

結婚していない男女間で生まれた子ども（婚外子）と法律上の夫婦の子（嫡出子）の相続配分を等しくする民法改正を巡る与党対応にも首を傾げざるを得ない。今年9月の最高裁で、婚外子の相続分を嫡出子の半分としている規定が「違憲」とされた。にもかかわらず与党は、最高裁判決を受け入れずに法改正を遅延してきた。そればかりか党内の部会では「最高裁の暴走だ」「このまま従えば、立法よりも判決が上になってしまう」「最高裁の判決が間違っている」などという信じがたい発言が繰り返された。三権分立は憲法の最も重要な基本だ。無論、家族のあり方に対する個人の価値観や心情の違いはあるだろう。しかし、立法府の人間がその矛先を司法に向け、最高裁批判を展開するのはお門違いだ。

与党を経験した民主党との差別化を図ろうと、保守の理念を強調しようとする与党議員が増えている。保守とタカ派をはき違えた若手議員とそれを抑制できなくなったベテラン議員の構図がそこにはある。また小選挙区制度によって、旧宏池会のような政治勢力が存在感を示せなくなっているのかもしれない。

### 「野党の声は国民の声」

野党になろうとも、国民の代表として正々堂々政策論争を挑み、直球勝負でそれを貫いていきたい。

#### しんば賀津也プロフィール

参議院：環境委員会委員、国家基本政策委員会委員、倫理選挙特別委員会委員

党 職：参議院民主党国会対策委員長、民主党静岡県総支部連合会会長、民主党お茶振興議員連盟会長、東日本大震災・災害廃棄物広域処理推進議員連盟（がれき処理推進議連）副会長等

その他：静岡県馬術連盟会長、中央大学大学院公共政策研究科客員教授、富士山世界文化遺産両県県民会議顧問、リアルジャパンプロレスコミッショナー等

過去の主な役職：防衛副大臣（鳩山内閣、菅内閣）、外務副大臣（第三次野田改造内閣）、外交防衛委員長、議院運営委員会筆頭理事、外交防衛委員会筆頭理事、国会対策委員長代理、予算委員会理事等